河上肇全集

第十六卷

河上徹太郎全集

第五卷

勁草書房刊

河上徹太郎全集　第五巻

昭和四十五年七月二十五日第一刷発行

著者　河上徹太郎
発行者　井村寿二
印刷者　白井倉之助
印刷所　精興社
製本所　牧製本
発行所　勁草書房
東京都千代田区神田駿河台二ノ三
電話東京（二九四）六一二一
振替東京　一七五二五三

© T. Kawakami Printed in Japan

（落丁・乱丁本はお取替えいたします）

0390—831510—1836

河上徹太郎全集　第五卷

編纂委員

石川　淳

井伏鱒二

小林秀雄

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

目次

エピキュールの丘
小林秀雄……19
久保田万太郎……28
吉田健一……38
「文學界」の人々……43
敗戰十年……49
沒談國事……54
長いものに卷かれぬといふこと……60
實生活能力白書……62
エチケットといふこと……67
八・一五の思ひ出……69
私の人生觀……73
六本木での一夕……77
青春への想ひ……79
挨拶……84

中の澤溫泉……86
都築ケ岡の風物……88
越路あまからの旅……93
銀座ののみや……97
大島の獵……98
柿生村獵信……100
戰後ゴルフの隆盛……102

思ひ出

私の修學時代……109
戰災の日……113
上海バレエの思ひ出……114
ゴルフ談議……116
わが球歴……120
錦帶橋流失……122
＊
病氣について……124

社會時評

帝銀事件……129
姦通罪……131
元號廢止……133
故郷だより……135
戰爭と平和……138
金閣寺を燒いた男……141

わが旅わが友

英國紀行……147
エディンバラの藝術祭……160
二十世紀の旅愁……164
長州北浦の旅……168
岩國……171
錦川の鵜……175
揚州の旅……177
特殊急行……180
中原中也……181

陶晶孫、ビスケット、鴨鍋……182
そばざかな……184
文士と飲み屋……185
わが青春の記……189
野鳥の色と味……191
現代生活の虚と実と
まえがき……195
現代生活の虚と実と
スピードとテンポ……197
進歩思想の一面……201
集団事故のモラル……205
スポーツ文学のモラル……209
雪舟展によせて……213
退屈について……217
愛するものの孤独……221
読書のすすめ……225
友情について……229

文化について
文明と文化……233
個人主義とエチケット……235
快楽と幸福
快楽と幸福……237
若さの幸……243
芸術とはなにか
芸術とはなにか……244
旅・獵・ゴルフ
旅
村のもの音……255
村の食べ物から……256
山へシバ刈りに……258
加賀の三日間……259
三日間—周東酒日記……261
岐阜行……263
早春の旅……265

京都の宿……268
延岡行……269
みちのくの旅……271
十和田湖から青森まで……272
林さんとの朝鮮旅行……274
ある日私は……276
美談……276
嘉村礒多文學碑……277
岩國の食べもの……278
我が室積……280

獵

初獵……283
獵犬……284
私の獵……287
獵閑期漫語……290
獵人の夏……293
若い獵友……295

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

指さす……296
白鳥の死……297
もつとのんびりと……300
メトロのライオン、白洲次郎氏……301
コラム
狩獵法……303
育英奬學金……303
電波と活字……304
ゐなかの子ども……304
今どきの子どもたち……305
スポーツのペース……306
漢字とカナ……306
鑄型の説……307
犬と鳩……307
旅とサービス……308
櫻桃忌……308
優劣感……309

弘法松……310
事件小說……310
敗戰の功德……311
プロと學生……312
冷酒……313
夏信……313
公共エチケット……314
徒弟時代……315
北海道にて……315
アメリカのソ連人……316
天氣と政治……317
國土開發……317
初秋の休日……318
健氏の遺著……318
讀書週間に……319
暗殺……319
相身互ひといふこと……320

自衞隊の基本精神……321
オペラの夢……321
憂樂帳のために……322
隨想
自分を大切にする人……323
「女らしさ」喪失の時代……325
思想のインスタント……330
國語問題の盲點……332
習俗の劃一化……334
書出し……336
「槍騎兵」のころ……337
文學者と手紙……338
文章の魅力といふもの……339
作家と年齢……340
私の詩的體驗……342
文學者とレジャー……345
義秀さんのこと……348

「流れる」を讀んで……349
旅は道連れ、世は情……350
食味評論家吉田健一……351
川端さんの思ひ出……353
蓮根論爭……354
大鳥圭介南柯の夢……359

文學論

アンドレ・ジッドと純粹小說……395
善良なるアテナイの市民「マキノ君」……399
小林秀雄氏への公開狀……402
肌をみせない藝術……404
詩と小說との限界について……406
正宗白鳥氏の批評について……409
嘉村さんの死に遭つて……412
人間修業といふこと—中村地平氏への返事……413
嫌惡について—岡村政司氏に答ふ……416
信じられぬ政治……417

中原中也の手紙……419
我が意に反した私小説……429
文學の實體とは？……432
富永太郎君の詩について……434
新しい協議體への示唆……435
「個」の運命……439
「近代の超克」結語……441
短篇小説の在り方……443
配給された自由……446
遷都論……448
批評精神の恢復……449
沈潛の人間愛—ボードレールと民主主義……450
中島敦君の作品について……455
「誤解」の成立……456
實存主義とは何か……458
カミュの不條理とシエストフの不安……464
武田泰淳のこと……475

井伏鱒二……477
「珍品堂主人」の著者井伏鱒二へ……481
新人の榮光と不幸について……482
火野葦平追悼……488
批評家としてのスタート……490
文体と文学……492
素顔の小林秀雄……494
川端さんの世界……496
文化的風土の変革—川端氏受賞の意味するもの……498
自主生産される自由……500

隨想・隨筆

高原日記……505
海から見た故郷……518
繪高麗と窒素の煙—朝鮮銃後講演餘錄……521
文學界のこと……526
仮名遣い論爭……528
小林と私……530

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com